

文 芸

俳 句

かと言つてなければ寂し春炬燵
池田 逸子
木々の間をゆつくり抜ける四温かな
伊藤 敬子
待ち侘びし鱈の味噌漬酒の友
今関満喜子
逝く人も生まるる子にも花吹雪
魚地 照子
褒められて子のまた唄ふ雛の宴
江森 悦子
風来れば白湧く枝垂桜かな
川島 通則
花ミモザ空の大きく広がりぬ
向後 寛
うららかや草生に野鳥は啄みぬ
越川せつ子
風光る足跡刻む乗馬かな
小松 藤男
風光るローカル線の空電車
佐瀬 輝夫
春光の統ぶる朝や佇めり
椎名万里子
杖一つ階段一步梅まつり
市東富美江
ひとふりの雨来て静か春灯下
鈴木とし子

短 歌

花冷えの上野公園開花待つ
土屋美枝子
母見舞ふ子の笑ひ声春灯下
土屋 義昭
追ひかけてきて小松菜をくれにけり
早川 勇
根付きたる暮しの庭や梅椿
藤田 雅夫
年金の身にはなりても畑仕事
齢忘れてねじりはちまき
越川 義則
あんな日が我にもありしと駆足で
過ぎゆく人を待ちて見送る
高梨 キヨ
ただいまの孫の笑顔にほつとして
合格発表待ちし一日
内藤 くに
……
田母沢の四百年経る枝垂れ桜
弥生初めを雪が覆ひぬ
水須 俊
小学校の卒業記念に娘が賜ひし
紅梅咲きてあたり明かるし
西山満里子
「北斗星」に乗りて旅せし日のあれば
廃止なるけふ落ち着かずをり
押尾 輝子
春の日を浴びて黄色のクロッカス
咲くをよけつつ脚立置きたり
椎名美枝子
登り来て一面広き梅林の
中に一本紅梅のあり
加瀬 弘子
春さきの畑に野菜の乏しきを
青く茂りし明日葉を摘む
青木 秀子
亡き夫が植ゑしに露の臺いでて
弥生命日摘み頃となり
鈴木まさ子
自が姉を見舞いて帰る老い母は
再た行けるかなほつり言いたり
浅野 榮子
うつすらと黄緑色に枝覆ひ
柳新芽の芽吹き初めぬ
八角 三枝
いづこより種飛び来しか一本の
すみれ咲きをり木下の蔭に
芹川 初子
コンサートの会場で見し盲導犬
主のそばをじつと動かず
田崎 尚美
成田へと最終の飛行機飛びゆくを
夜半に目覚めて聞きてゐにけり
斎藤つね子

作品展

◎町民会館ミニギャラリー

5月 展示なし
6月 写真会

◎文化会館ロビー展

5月 展示なし
6月 水墨画クラブ

◎サビア展

5月 展示なし
6月 俳句会

◎銚子商工信用組合展

5月 展示なし
6月 横芝写真クラブ

こうほう
博物館 86

小さな百合

図書館2階町民ギャラリー
ーでは、5月24日(日)ま
て鈴木総男「風薫る里の絵
画」展が開催中で、山百合
の絵画がひとときわ目を引
いている。
山百合は日本原産の百
合で最大の花を咲かすが、
今回紹介する花は最小の
百合であろう。その名も
「ちご百合」と呼ばれ、少
し薄暗い林床に、草丈10cm
ほどの先に、一輪2cmぐ
らいの白い花が下を向い
て咲く。ちご百合は、か
つてはユリ科に分類され
たが、現在はコルチカム
と同じイヌサフラン科で、
チゴユリ属に属し、ホウ
チャクソウが近縁種であ
る。暑くなりだす初夏、



▲中台の山の中の「ちご百合」

山の中に入ると、足の踏
み場もないほど群生して
いるところがみつかる。
決して華やかではなく、
目立たない花だが、群落
をつくって生えていると
ころは見事でたくましい。
(社会文化課 道澤 明)